

リアル色鉛筆画家・林亮太の「超写実技法」を全公開！

「林亮太の色鉛筆で描く 野外スケッチからリアルな風景画ができるまで」 発売のご案内

4月20日(土)発売

株式会社ホビージャパン(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:松下大介)は、超リアル色鉛筆画家・林亮太の待望の最新技法書、林流「超写実技法」の秘密をあますところなく紹介した、「林亮太の色鉛筆で描く 野外スケッチからリアルな風景画ができるまで (ホビージャパンの技法書シリーズ)」を、4月20日(土)に発売いたします。

リアル色鉛筆画家・林亮太の「超写実技法」を全公開！

超リアル色鉛筆画家・林亮太の待望の最新技法書、発売です！本書では、林流「超写実技法」の秘密をついに全公開。「これが本当に色鉛筆で描かれた作品なの」という驚きのテクニックの数々に加え、今まで明かされることのなかった野外スケッチを重ねることで超リアルな作品を構築していくという、作品制作の初期段階の重要な過程も詳しく紹介します。

第1章 必要な道具と基本テクニック

色鉛筆の紹介/用紙・その他必要な道具/色鉛筆のタッチに慣れよう/色鉛筆の混色について/基本の4色を重ねる手順/白の使い方と削りのテクニック/立体感の出し方(光・影・陰について)/奥行き感の出し方/透視図法のミニ知識/構図の決め方/コラム「色の3原色と光の3原色」

第2章 野外スケッチのススメ

野外スケッチに行こう/1色スケッチ/2色スケッチ/3色スケッチ/4色スケッチ/コラム「野外スケッチは恥ずかしい!?!」

第3章 色鉛筆でリアルな風景画を描く 実践編

Lesson1「古い門のある風景」を描く/Lesson2「カーブする川」を描く/Lesson3「電車の見える風景」を描く/Lesson4「2つの坂」を描く/Lesson5「公園の水場」を描く



林亮太の色鉛筆で描く 野外スケッチからリアルな風景画ができるまで

林亮太 著

●定価/本体 2,100円+税 ●発売日/2019年4月20日 ●判型/B5ワイド判・平綴じ 128P
●ISBNコード/978-4-7986-1919-4 C2371

◆書籍ページ http://hobbyjapan.co.jp/manga_gihou/item/2325/

◆ホビージャパンの技法書 公式WEB http://hobbyjapan.co.jp/manga_gihou/

◆twitter https://twitter.com/manga_gihou

◆facebook <https://www.facebook.com/mangagihou>



※お問い合わせは下記まで

株式会社ホビージャパン 広報宣伝課 佐藤・会田・深堀・岡本
TEL. 03-5304-9115 FAX. 03-5304-9318 E-mail. pr@hobbyjapan.co.jp
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-15-8 URL: <http://hobbyjapan.co.jp/>



『風景画(上)』
 5層の構成から、絶えず変わっていく自然の姿に驚かされる。
 F11号 18.2cm x 13.0cm / 4色絵具+色 / KANSAI COLOR / www.TMR.jp 3-20 / June 2018

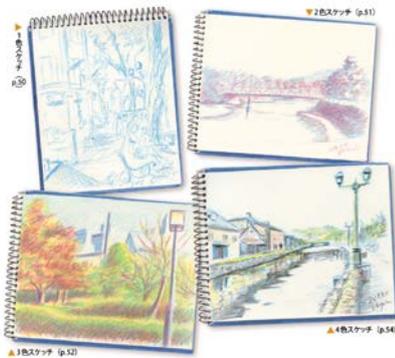
『五月晴の道 中野区上野宮(注)』
 中野区の外れにある静かな土蔵。6月の週末は多くの客を魅了し続ける。
 制作スタイル: 1/2枚の絵具を使いこなすアート。F11号
 F11号 18.2cm x 13.0cm / 4色絵具+色 / KANSAI COLOR / www.TMR.jp 3-20 / June 2018

野外スケッチを元にアトリエで本格制作へ

野外で描きためたメモ代わりのスケッチと、現場でたくさん撮影した写真を中心に、アトリエで本格的に制作を始めます。スケッチはあくまでメモ代わりですから、実際に制作すると構図の微細が変わったり、視点が変ったり、色使いが変わったりすることも多々あります。それもまた絵を描くことの楽しみです。

野外では1色/2色/3色/4色スケッチを使い分ける

野外スケッチに36色セットを持って行き、多色でスケッチすることも楽しいですね。ただ、実際にはメモ代わりのスケッチではそれほど時間はかかりません。短時間でささっとスケッチするには、少ない色数が便利です。私の場合、最大で4色(青、赤、黄、黒)しか使いません。スケッチにおける構図によって、1色(シアン)だけで終わらせることもありますが、かけられる時間によって2色(シアン+マゼンタ+イエロー)、3色(シアン+マゼンタ+イエロー)、4色(シアン+マゼンタ+イエロー+ブラック)と変化していきます。それぞれのスケッチについての詳細は、次項より紹介します。



自宅のアトリエでじっくりと本格的な制作へ

メモ代わりのスケッチと、たくさん撮影した写真を元に、アトリエで実際の作品制作にかかります。スケッチはメモ代わりですから、実際に制作すると構図の微細が変わったり視点が変ることも多々あります。スケッチや写真をしながら、「どれくらいのサイズで描こうか」「画面の微細はどちらがいいかな」「少しシヤンの色を加えてみるか……」など静かに考えを巡らす時間が一番楽しいかもしれません。実際のアトリエでの作品制作の過程については、Chapter3で解説します。



野外でスケッチや写真を元に、自宅のアトリエで本格的に制作を進める



メモ代わりの野外スケッチを元に……

アトリエで本格的に制作して……

作品が完成します

実践編 03

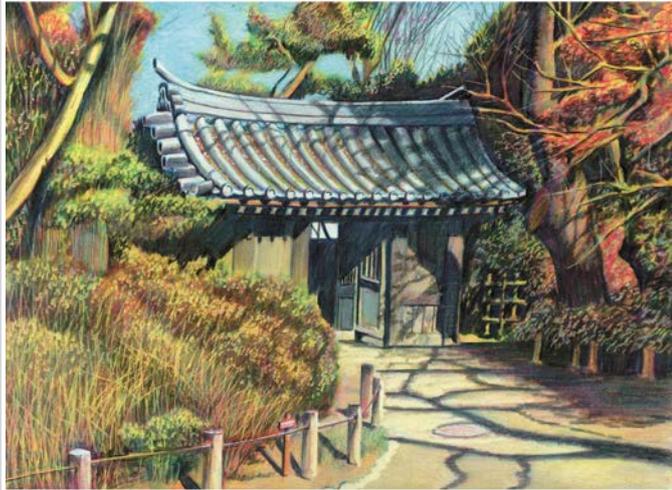
「都電の走る風景」を描く



今回の題材のテーマは、「鉄道」です。鉄道もまた風景画の中で大きな存在感を誇ります。電車の車両もそうですが、何よりも線路のレールや駅舎などが情景やちよとした平日感覚も演出します。今回は東京で唯一残っている路面電車である「都電荒川線」の光景を描いてみました。場所は豊島区雑司が谷。線路がカーブし、曲がるところから一面編成の電車が走ってきます。午前中の光の方向を意識して、レールやバラスト(砂利)の陰影表現と質感表現をしっかりと描いていきます。

『都電の走る風景 豊島区雑司が谷』
 F11号 18.2cm x 13.0cm / 4色絵具+色 / KANSAI COLOR / www.TMR.jp 3-20 / February 2018

「古い門のある風景」を描く



実践編最初の題材は、中野区・哲學堂公園の入り口付近にある「古い門」です。晩秋のよみ隠れた朝に撮りました。

古い木造の門、太い幹の木々、少し枯れたような草、そして門への道。写真でおわかりのように、これらの要素は茶系の色が多く、かなりくすんだ彩度の低い色彩が中心となります。この色彩を、4色の色鉛筆をうまく使って表現していくことがポイントとなります。

モチーフの門自体はそれほど複雑な構造ではありませんが、しっかりと陰影をつけて立体感を強調して描いていきましょう。

「古い門」中野区哲學堂公園
*作者 田中 伸也 / 4歳6ヶ月 / KAMISAKICOR /
画材 TAC 529 - 2019 / December 2018

1 描き始める前に

Step1 陰影をとらえよう

元の風景



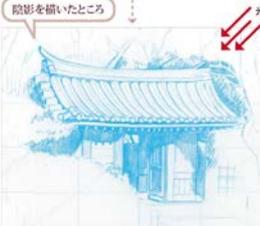
光

影 (Shadow)

ハイライト

光

影 (Shade)



陰影を描いたところ

光

影 (Shadow)

光

影 (Shade)

光

影 (Shadow)

Step5 再び色鉛筆(シアン)を重ねる



09

再びシアンを屋根の緑全体に重ねます。

緑の緑を再び重ねます。

Step7 色鉛筆(ブラック)で塗る



11

ブラック(カシマカラー PCS38 Black)で、陰影の中にも特に暗い部分を中心に着色します。

まずは門の屋根から、凹凸を意識して瓦の厚さを際立たせながら塗ります。その後、壁や窓などの陰影も塗ります。

まずは門の屋根から、凹凸を意識して瓦の厚さを際立たせながら塗ります。その後、壁や窓などの陰影も塗ります。